

日本植生史学会ニュースレター

No.41 February 20, 2017

第 32 回日本植生史学会大会のご案内（第 1 報）

第 32 回日本植生史学会大会を下記の日程で開催します。

◆日時

- 12 月 1 日（金） 午後：幹事会
12 月 2 日（土） 午前：幹事会，評議員会
午後：公開シンポジウム，論文賞関連行事，懇親会
12 月 3 日（日） 一般研究発表（口頭・ポスター），総会
12 月 4 日（月） 巡検（第 43 回日本植生史学会談話会）

◆会場 宮崎大学木花キャンパス（宮崎市学園木花台西 1-1）

※宮崎市街地など他の会場に変更する可能性があります。

◆主催 日本植生史学会

◆大会実行委員 宇田津徹朗（委員長），杉山真二，栗畑光博，吉田明弘，一木絵理，星野安治，江口誠一

◆公開シンポジウム 「環境と稲作と中国文明 —総合稲作文明学へのアプローチ—」

オーガナイザー 中村 慎一（金沢大学），金原正明（奈良教育大学），宇田津徹朗（宮崎大学）ほか

趣旨：従来の中国文明研究では軽視されてきた稲作と文明形成との関わりにスポットを当て，考古学を中心に，歴史学，文化遺産学，社会学，地理学，植物学，動物学，人類学，農学，地球化学，年代学等を専門とする多彩な研究者が一丸となり，「総合稲作文明学」という新たな学術領域創成の取り組みが進んでいます。具体的には，長江下流域の新石器時代（河姆渡文化，良渚文化など）の遺跡や周辺地域を調査フィールドとして，上記の各分野の調査分析が進められています。本シンポジウムでは，それに関する調査研究の最新の成果を紹介しながら，中国におけるイネ栽培化プロセスについて議論を深めたいと思います。

◆巡検（第 43 回日本植生史学会談話会）について

現在のところ，既に 2003 年談話会が実施されておりますが，その後 2012 年にユネスコ・エコパークに登録されました綾町の照葉樹林観察を中心とした「綾の照葉樹林を巡る」または，宮崎の観光スポットでもある日南海岸の自然の観察を中心とした「日南海岸の植物と植生」を中心に検討を進めております。綾の照葉樹林については既に会誌等で触れられておりますので，「日南海岸の植物と植生」の場合の巡検内容について以下にご紹介いたします。

内 容：宮崎の有名な観光スポットでもある日南海岸を南下しながら，青島亜熱帯性植物群落や都井岬で天然記念物の岬馬やソテツ自生地などを見学いただく。青島は，日向灘に面した周囲 1.5 km の島で，島内には 230 種の植物が生育しており，そのうち 28 種がピロウなどの亜熱帯植物である。都井岬は，日向灘の南端に位置し，江戸時代には軍用馬の放牧地であった。明治以降，人の管理から離れた馬が半野生化し，現在も 100 頭程度が棲息している。

日 程：12 月 4 日（月）

定 員：30 名程度

第 42 回日本植生史学会談話会のご案内

第 42 回日本植生史学会談話会を下記の要領で行います。

◆テーマ

北海道・道東の植生巡検

- ―道東の消えゆく森?! 根室市春国岱のアカエゾマツ林
- ―氷河時代の生き残りか?! 別海町西別湿原のヤチカンバ

◆内容

【春国岱のアカエゾマツ林】知床半島と根室半島間の標津、別海は構造的な沈降地帯で、この 100 年間に最大 1.3m も沈降しています。野付半島のトドワラは、60 年ほど前はそれでも未だ緑の葉をつけたトドマツがあったそうですが、30 年ほど前には既に完全な立ち枯れ状態になり、今では立ち枯れ株も侵蝕されて大部分が失われてしまっています。根室半島の北側に位置する春国岱（しゅんくにたい）の西側（風蓮湖側）では地盤の沈下による地下水位の上昇により順次立ち枯れが進行し、東側（根室海峡側）では冬の季節風による高潮と強風により木々がなぎ倒され、極めて純度の高い美しいアカエゾマツの森がどんどん縮小しています。現在この森がどんな状態にあるのか、そしてその将来をどの様に捉えることができるか、森の中でディスカッションします。

【西別湿原のヤチカンバ】北海道には帯広に近い更別町とここ別海町と 2 カ所のヤチカンバ自生地があります。更別湿原の生育地は乾燥化が進み、本来の生育状態とはかなり違ったものになっていますが、西別湿原ではかなり本来の生育地に近い状態の部分もあります。自生状態を現地を確認し、これが果たして「氷河時代の生き残り」なのか、それを証明するにはどんな研究があり得るのか、そして保全にどんな方策を提案できるのか、湿原の中でディスカッションします。

◆日時

2017 年 5 月 19 日（金）～5 月 21 日（日）

※なお、本談話会の前後に、希望される方にはオプション巡検を計画しています。メニュー候補は、標津湿原（国指定天然記念物）、早春の湿地林（山菜採り?）、根室半島の台地上のアカエゾマツ林と湿原、屈斜路湖硫黄山のハイマツ林、等々あります。詳細は、danwa42@hisbot.jp へお問い合わせください。

- 集合：5/19（金）14：00 根室中標津空港
東京（羽田）12：15 - 根室中標津空港 13：55 着
札幌（千歳）12：05 - 根室中標津空港 12：55 着
- 解散：5/21（日）12：30 根室中標津空港
根室中標津空港 13：25 - 札幌（千歳）14：25 着
根室中標津空港 14：35 - 東京（羽田）16：30 着

◆参加費

10,000 円程度を予定（参加人数により変動。宿泊費別。）

※期間中の宿は世話人がまとめて手配しますが、参加者のみなさんの希望をお聞きし、案内していただく鈴木三男さん宅での宿泊も検討中です（宿泊費無料・食費負担・寝袋持参：学生会員を優先します）。

◆申し込み方法

メールの件名を「第 42 回談話会参加希望」として、次の事項を記載の上 danwa42@hisbot.jp 宛へお申し込み下さい。

①氏名、②所属、③連絡先（住所、電話番号、E-mail）、④会員/学生会員/非会員の別

申込締切：2017 年 4 月 10 日（先着順。定員になり次第、締切ります。）

定員：10 名

世話人：鈴木三男、小林和貴、箱崎真隆、星野安治、江口誠一
主催：日本植生史学会

学会ニュース

● 会費納入のお願い

2017年度の会費納入にご協力下さい。

日本植生史学会会費（2010年度より）一般会員：6,000円・学生会員：3,000円・シニア会員：3,000円・団体会員：8,000円・賛助会員：一口20,000円とし一口以上とする。

会費納付先：郵便振替口座 00980-8-70087 加入者名 日本植生史学会

● シニア会員制度について

日本植生史学会では、植生史学分野に長年携わり活躍されてきた会員に、定年退職後も学会活動への継続的な参画を期するため、「シニア会員」の制度を設けています。シニア会員は日本植生史学会において正会員と同じ権利を持つものとし、会費は3,000円とします。すでに60歳となり定年を迎えた方や、今年（2017年）3月に定年を迎える方など、常勤の職を持たない60歳以上の正会員の方で、シニア会員への会員種別の変更を希望される方は、本年8月末日までに申請書（学会ホームページからダウンロードできます：<http://hisbot.jp/contact>）に必要事項を記入の上、庶務幹事宛にお送り下さい。幹事会での承認を経て、次年度（2018年度：2017年10月1日～2018年9月30日）よりシニア会員として登録されます（下図参照）。

日本植生史学会会則（2006年11月26日改正，2009年11月8日改正，2011年11月6日改正）

第4条（会員）

会員は正会員（一般会員および学生会員），名誉会員，団体会員および，賛助会員，およびシニア会員とする（略）

e. シニア会員は常勤の職を持たない60歳以上の正会員で，本人が会長に申請して幹事会の承認を得た者とする。

	2017年										2018年				
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
年度	2016	2017										2018			
学会年度	2017										2018				
	← 申請						承認 →	シニア会員として登録， 以降の会費は3,000円							

● IBC 2017 深圳大会の参加学生会員等に対する補助金のお知らせ

第18回国際植物科学会議（XIX International Botanical Congress：IBC 2017）が2017年7月23日～29日に深圳市（中華人民共和国）で開催されます。日本植生史学会では、IBC2017で講演を行う学生会員またはこれに準ずる会員（研究機関などに在籍し常勤職に就いていない40才以下の本会会員に限る）に対し、参加費等に充てるため、1人5万円を補助いたします。

補助金を希望する会員の方は、件名を「IBC参加費補助申請」として2017年3月3日（金）までに下記項目を電子メールにて庶務幹事宛（hbmain@hisbot.jp）までご提出ください。申請内容に基づき日本植生史学会の幹事会にて公正に検討し、助成の可否について2017年3月中旬頃までにご連絡いたします。助成が決定した場合、大会での発表を確認後にご指定の振込先に送金します。

1. 氏名
2. 所属機関（学生会員でない方は詳細な職名もご記入ください）
3. 発表題目（英語）
4. 発表要旨（英語）
5. 連絡先（住所，電話番号，E-mail）
6. 振込先（銀行名，支店名，口座番号など）

申請・問い合わせ先：庶務幹事 鈴木伸哉 〒206-0033 東京都多摩市落合1-14-2 東京都埋蔵文化財センター
電話 042-374-8044 E-mail：hbmain@hisbot.jp

● 異動・所属変更に伴う会員情報変更のお願い

学生会員及び一般会員の方で、異動、所属変更等があった方は、以下の日本植生史学会事務局へご連絡下さい。

事務局

- 連絡・問合せ 庶務幹事 鈴木伸哉 〒206-0033 東京都多摩市落合1-1-4-2 東京都埋蔵文化財センター
TEL : 042-374-8044 庶務 : hbmain@hisbot.jp 会誌投稿 : journal@hisbot.jp
- NL編集 ホームページ・企業広告問い合わせ 広報・渉外幹事 井上 淳 広報・渉外 : hbnews@hisbot.jp
- 入会・異動・退会の申し込み、バックナンバーの購入、メーリングリストアドレスの登録・変更、NL発行
〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本植生史学会事務局
Tel : 03-5307-1175 Fax : 03-5307-1196 Mail : hisbot@univcoop.or.jp
- 学会ホームページ <http://hisbot.jp/>